

# 広報たかなべ

2016. 11. 18 NO. 403

- ・第16回 高鍋城灯籠まつり
- ・特集 認知症に優しいまちを目指して
- ・平成27年度 高鍋町の決算状況を報告します
- ・宝くじの助成金で整備されました
- ・災害への備えは万全ですか？
- ・全国の方々から応援していただきました  
～高鍋町ふるさと納税～
- ・19人が受賞「町民の日」記念式典・高鍋町社会福祉大会
- ・第2回 高鍋城灯籠まつり写真コンテスト
- ・地域で子育て応援！一子育て応援フェスティバル
- ・大好きな高鍋町の風景
- ・まちの話題
- ・わが町の宝物



## 灯りに願いを込めて

毎年行われている高鍋城灯籠まつり。会場に並べられている灯籠は、町内の幼稚園や保育園、小学校の児童や企業の方々など町民の皆さんによって作られており、それぞれ思いが詰まっています。

皆さまのご協力によって開催できている灯籠まつり。今年は途中天気が崩れたりもしましたが、準備から片付けまで多くの方々にご協力いただき、無事に開催することができました。



# 第十六回

# 高鍋城灯籠まつり

町を代表するイベント「高鍋城灯籠まつり」が10月8日(土)、9日(日)の2日間にわたって行われ、約3万8千人の来場者でにぎわいました。今回は第十七代米沢藩主上杉邦憲様も初めてお見えになりました。

このまつりは、高鍋藩の名君である秋月種茂公が創設した明倫堂の教え「人の倫」を育む心「精文化」に明かりを灯し、受け継ぎ、伝えていくことを目的としたまつりです。今年、時折雨が降る場面もありましたが、約1万基の灯籠が会場を美しくやさしい灯りで彩り、来場者を魅了しました。他にも、ステージイベントや物産展、町民総踊りなども行われ、町内が一体となって盛り上がりました。



TAKANABE CASTLE LANTERN FESTIVAL 2016

高鍋城灯籠まつりは、実行委員会メンバーをはじめ、多くのボランティアの皆さんによって支えられ、開催されています。その皆さんに心から感謝しながら、活動の軌跡を写真で紹介いたします。



来年もどうぞ  
よろしくお願ひします

特集

認知症に優しいまちを目指して

全国において、65歳以上の高齢者の約7人に1人が認知症になっており、2025年には約5人に1人の割合になることが予想されています。誰もが発症する可能性のある認知症について、今回学んでみたいと思います。

認知症とは？

認知症とは、「脳の障害などが原因で、記憶・判断力の低下などがおこり、社会生活に支障をきたす状態」を言います。

歳をとると誰でも忘れっぽくなりますが、例えば、食べたメニューを思い出せないのは単なるもの忘れの可能性が高いと言えます。しかし、もしまつたこと自体を覚えていなければ認知症の疑いがあります。

他にも、現在の年月や時刻、自分がどこにいるかなど、基本的な状況を把握することが出来なくなるのも、認知症の症状の一つです。

また、認知症には主に次の4つの種類があります。

①アルツハイマー型認知症

最も多いパターン。記憶障害から始まるものが多い。

②脳血管性認知症

脳梗塞や脳出血、脳動脈硬化などによって発症し、記憶障害や言語障害などが現れやすい。アルツハイマー型と比べて早いうちから歩行障害も出やすい。

③レビー小体型認知症

幻視や筋肉のこわばり（パーキンソン症状）などを伴い、症状の変動が大きい。

④前頭側頭型認知症

がまんすることや思いやりなどの社会性の欠如や性格変化などが現れる。

認知症の予防策

認知症の予防とは、認知症発症のリスクを少なくすることです。

認知症の大部分を占めるアルツハイマー型認知症や脳血管性認知症は、生活習慣病（高血圧、糖尿病、高脂血症など）との関連があるとされています。野菜・果物・魚介類などの栄養豊富な食事を心掛けたりするなど、普段からの健康管理が認知症の予防（発症リスクの軽減）につながります。

また、ウォーキングや水泳、体操、サイクリングなど脳の活性化を図る有酸素運動も認知症の予防に効果的です。定期的な運動習慣を身に付け、ご自分のペースで無理せず楽しく行いましょう。

「認知症かも？」と思ったら

認知症は徐々に進行しますが、早めに症状に合った「治療や支援」を始めれば、症状が軽くなるなど、認知症になっても穏やかに暮らしていくことができます。自分自身や家族、同僚、友人など周りの人について「もしかして認知症では」と思ったら、一人で悩まずに、医療機関またはその他の相談窓口にご相談しましょう。

主な相談先は次のとおりです。早めの受診が重要となります。



【相談窓口】

◎高鍋町役場健康保険課

介護・高齢者福祉係

◎高鍋町地域包括支援センター

（認知症地域支援推進員も配置されています）

【医療機関】

◎認知症サポート医（町内）

黒木宗俊医師

（黒木内科医院）

米澤 勤医師

（海老原総合病院）

◎みやざきオレンジドクター

◎認知症疾患医療センター

（平成29年3月31日まで指定）

野崎病院（宮崎市）

協和病院（日向市）

大悟病院（三股町）

町での取り組み

町では、認知症になっても安心して暮らせる高鍋町を目指し、主に次の取り組みを行っています。

①認知症サポーター養成講座

認知症サポーターとは、特別に何かをする人ではありません。認知症について正しく理解し、認知症の人や家族に対して温かい目で見守る「応援者」のことを言います。町では、現在975名の方が受講しており、受講すると認知症サポーターの証である「オレンジリング」がもらえます。



②あんしん見守りネットワーク事業

地域の協力事業者等（郵便、タクシー会社等の町内事業者）が、事業活動を行うなかで、高齢者等の普段とは違う状況に気付いた場合、その情報を町に提供します。町は、提供していた情報をもとに、必要な支援につなげていきます。

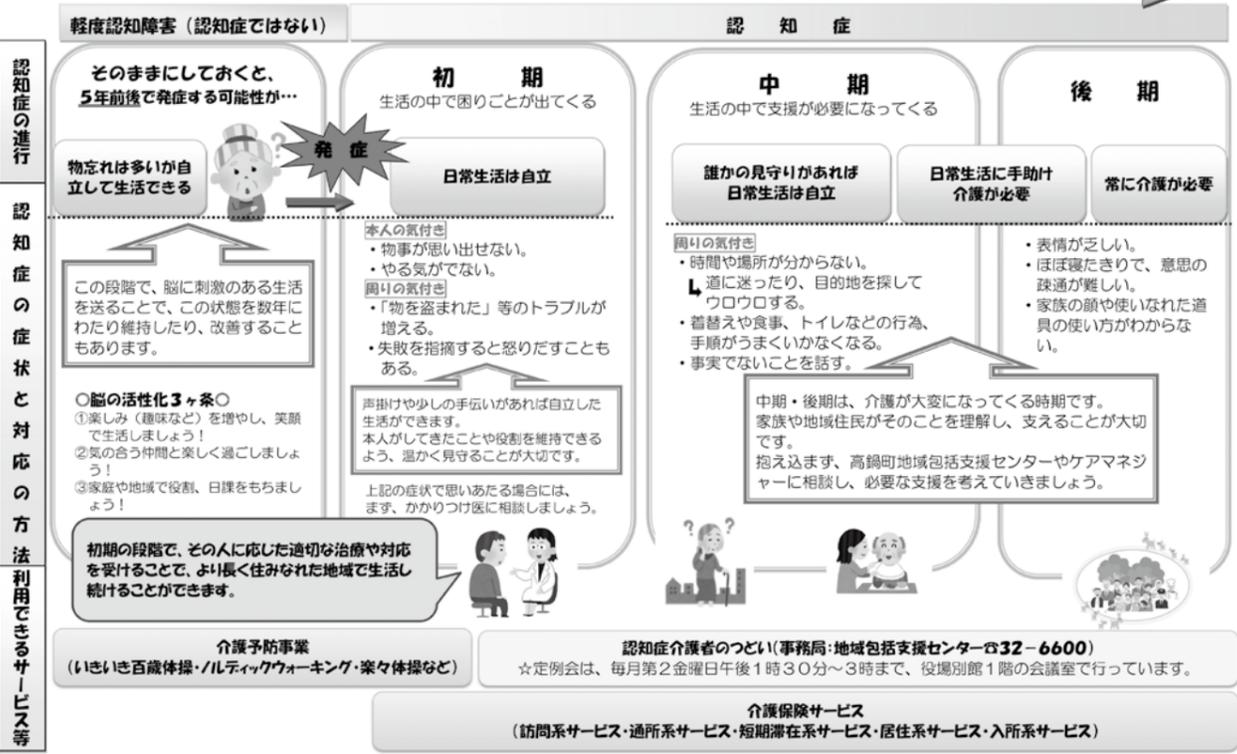
③高齢者等発見ネットワーク事業

徘徊などにより行方不明になる心配がある場合、対象者の情報を家族等が事前に登録し、町や地域包括支援センター、高鍋警察署で共有します。実際に行方不明になった場合、警察や協力機関等による捜索がスムーズになり、早期に発見・保護できる確率が高くなります。



資料 認知症の進行図（高鍋町認知症安心ガイドから引用）

※症状の現れ方には個人差があります。



④声かけ・見守り訓練

9月17日（土）、高鍋町社会福祉協議会が中心となり、蚊口地区にて「認知症の方の声かけ・見守り訓練」を町内で初めて実施しました。認知症への理解を深め、認知症役の方を相手に実践をし、最後に行われた意見交換会では、「普段から、声を掛け合い、絆を深めることが大事」との意見が、参加された方から挙がりました。



「声かけ・見守り訓練」にて、認知症役の方に優しく話しかける参加者

認知症（オレンジ）カフェ

12月21日（水）に認知症カフェ、「オレンジカフェ」はまばら

が安心して過ごすことができ、相談したりくつろぐことができる場所となっています。認知症について理解を深めたい方、地域の方でも参加可能です。

- \*日時\* 毎月第3水曜 13時半～15時半
- \*場所\* ぐらんま茶寮（蚊口地区）
- \*参加費\* 200円

いつでも気軽に話しかけてください！



高鍋町 認知症地域支援推進員 横田 麻美 さん

The Interview

認知症になってもできることはたくさんあります。できる部分やその人らしさを大事にし、医療・介護と連携し、地域の皆さんと支え合い、認知症になっても安心して暮らせるよう、私も認知症地域支援推進員としてお手伝いをさせていただきます。

明日の自分や家族のために、認知症サポーター養成講座を受講したりオレンジカフェに出かけたりすることが、認知症理解への第一歩だと思います。気になる事やお困りの事があった際には、高鍋町役場別館1階の地域包括支援センター（☎32-6600）まで気軽にお声かけ下さい。

【取材を終えて】

今回認知症について取材をしていくなかで、地域が一体となり理解を深めていくことが重要だと思えました。

周りの人に目を向け、皆で支え合い住みよい高鍋町を作っていくために、まずは私も友人等を誘って認知症サポーター養成講座を受講してみたいです。

# 高鍋町の決算状況を報告します

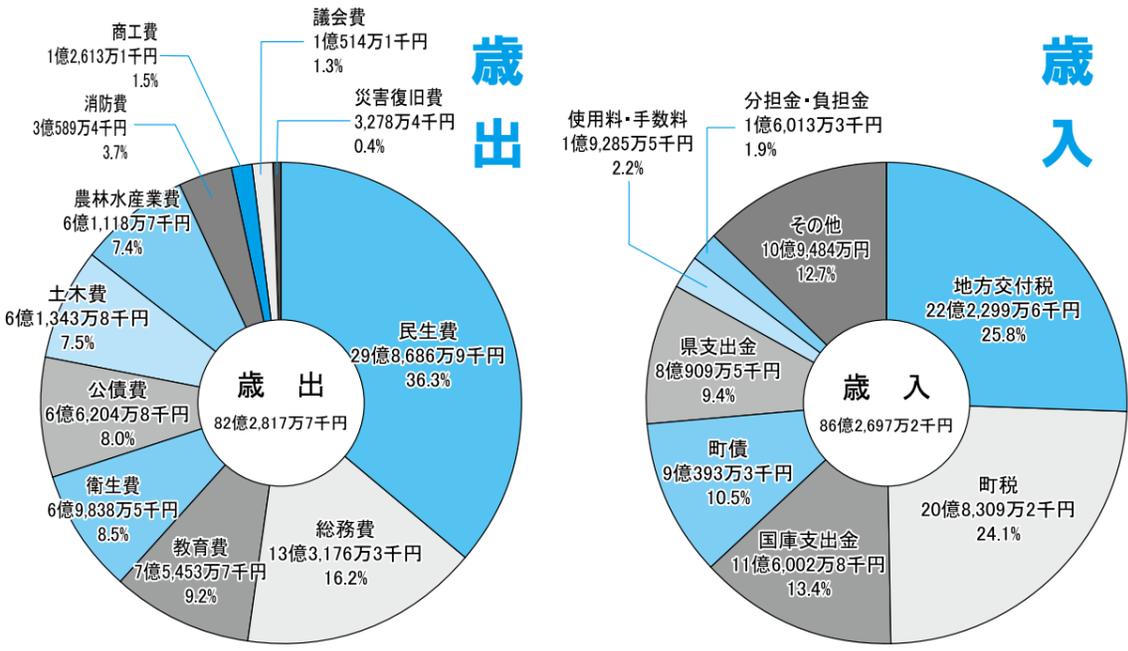
町民の皆さんが納めた税金や、国・県からの交付金など、どのような形で、どのような目的に使われているのか。町の財政状況を広く知らせるために、毎年、決算の状況を公表しています。

平成27年度一般会計の決算額は、歳入総額86億2,697万2千円、歳出総額82億2,817万7千円となりました。前年度の決算額と比較すると、歳入全体では、3億4,537万2千円の増、歳出では、2億7,127万3千円の増となりました。

前年度と比較すると、歳入面では、地方交付税は9,957万8千円の増、町税は441万7千円の増となりました。国庫支出金は3,817万7千円の増、県支出金は5,278万1千円の増となりました。町債は庁舎別館建設事業の2億760万円、国営事業負担金事業の8,030万円の起債などにより、1億4,891万円の増となりました。

歳出面では、民生費は扶助費、特別会計への繰出金の増加傾向に伴い、1億6,019万9千円の増となり、前年度と同様に歳出の3分の1以上を占めることとなりました。農林水産業費は、埋却地再生整備事業の1億2,076万4千円、尾鈴地区土地改良事業の8,922万8千円などの事業により、2億1,985万1千円の増となりました。公債費は平成20年度のピーク時から減少し、平成27年度は1,021万4千円の減となりました。

実質収支は昨年度から4,258万5千円増となり、3億3,173万4千円となりました。今後も扶助費の増加傾向や近年の大型公共事業等の公債費の支払いが見込まれるため、これからも引き続き徹底した歳入の確保、歳出の抑制を図り、計画的なまちづくりに取り組んでいく必要があります。



◎公債費

一般会計地方債残高 (平成27年度末現在)	73億2,031万4千円
-----------------------	--------------

◎水道事業

区分	歳入	歳出
収益的収支	4億6,373万4千円	4億1,453万8千円
資本的収支	5,000万円	3億1,467万5千円

◎特別会計

区分	歳入	歳出
国民健康保険	34億8,940万4千円	32億1,821万1千円
後期高齢者医療	4億7,215万7千円	4億7,214万円
下水道事業	3億4,750万7千円	3億3,996万2千円
介護認定審査会	1,049万6千円	953万5千円
介護保険	17億5,097万1千円	16億3,076万4千円
一ツ瀬川雑用水管理事業	2,427万3千円	2,125万4千円
西都児湯固定資産評価審査委員会	35万4千円	18万7千円

## 「健全化判断比率等」について公表します

### 財政健全化法に基づく高鍋町の

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」により、地方公共団体は、毎年度4つの健全化判断比率(実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率・将来負担比率)および資金不足比率を算定し、議会への報告および公表が義務づけられています。

これらの指標が悪化し、早期健全化基準、財政再生基準を上回ると、財政的に危険な水準にあると判断され、議会の議決を経て財政の健全化または再生のための計画等を策定し、外部監査を求めることなどが義務づけられています。



**■高鍋町の算定結果は？**

平成27年度決算に基づき、算定した健全化判断比率および資金不足比率は、いずれの指標も早期健全化基準、財政再生基準を下回る結果となりました。地方交付税が増額したことや基金残高の増額などにより、前年度より比率が改善されました。

1. 健全化判断比率

指標	比率(26年度)	比率(27年度)	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	—	15.0%	20.0%
連結実質赤字比率	—	—	20.0%	30.0%
実質公債費比率	10.2%	9.4%	25.0%	35.0%
将来負担比率	27.2%	18.3%	350.0%	

※実質赤字額、連結実質赤字額がないため「— (該当なし)」で表示しています。

2. 公営企業の資金不足比率

公営企業会計の名称	比率	経営健全化基準
水道事業会計	—	20.0%
下水道事業特別会計	—	

※いずれの会計も資金不足がないため「— (該当なし)」で表示しています。



◆小丸上地区自治公民館◆  
(一般コミュニティ助成事業)

- ・会議用テーブル
- ・折りたたみチェア
- ・プロジェクター
- ・ワイヤレスマイク
- ・スクリーン
- ・液晶テレビ
- ・プリンタ
- ・ポータブルアンプ
- ・ノートパソコン
- ・カラオケシステム
- ・エアコン ほか



◆鳴野地区自治公民館◆  
(地域防災組織育成助成事業)

- ・テント
- ・スポットクーラー
- ・ポータブルトイレセット
- ・三脚
- ・ガス炊飯器
- ・フローティングベスト
- ・発電機
- ・チェンソー ほか

コミュニティ助成事業は、コミュニティの健全な発展を図るため、一般財団法人自治総合センターが宝くじの受託事業収入を財源に行っています。

高鍋町では、平成28年度に次の備品が整備され、地域コミュニティ活動に活用されています。

宝くじの助成金で整備されました

# 災害への備えは万全ですか？

近年中に発生すると言われている南海トラフ巨大地震や台風、水害等の自然災害に対する備えは万全でしょうか。いつ、どのような災害が起きてもお困らないよう日頃から身の周りの環境を整えておくことが大切です。

## 防災訓練が実施されました

10月16日(日)に震度7の地震が発生し大津波が高鍋町を襲うという想定で県総合防災訓練が実施されました。

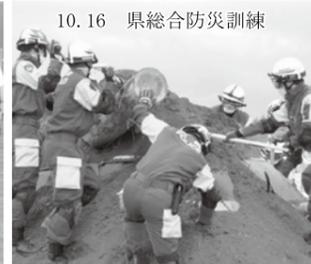
参加機関は町、消防、警察、自衛隊をはじめとする64機関、津波避難訓練および町体育館で行われた避難所運営訓練には町民1,497人が参加しました。その他にも物資搬送訓練や自衛隊と日赤奉仕団による炊き出し訓練、救助訓練など町内全域による大規模な訓練となりました。

10月28日(金)には高鍋町教育関係機関の合同避難訓練が実施されました。今年で2回目の本訓練は、天気等の影響で実施できない機関もありましたが、参加した幼保小中は一体となり避難訓練に臨みました。

これらの訓練は、いつ起こるか分からない自然災害に備え防災や減災の避難行動の在り方を学ぶとともに、防災意識を高め、さらに防災について考えるよい機会となりました。



東小屋上に避難するわかば保育園児の手をひく保育士と小中学校の先生たち



埋没車両からの救助訓練の様子

**非常時の備えを確認しましょう**  
平成27年度の宮崎県民意識調査において「災害に備えている」と回答した人は43.3%でした。非常持出品や備蓄品は、準備をしていても非常時に使えなければ意味がありません。定期的な電池の交換や確認や懐中電灯などの電池が使えるかを確認し、必要であれば入れ替えておきましょう。一度に全てを揃えるのは大変なので、日頃から少しずつ準備をし、最低3日間、可能な限り1週間分の備蓄に取り組みましょう。

## 非常持出品・備蓄品チェック

非常持出品	避難するときに持ち出す必需品をまとめたもの。あまり重いと避難行動に支障が出るので必要最低限のものをまとめておき、すぐ取り出せる場所に保管しておきましょう。	
<input type="checkbox"/> <b>ヘルメット・防災ずきん</b> 落下物から頭を守る。必ず家族の人数分用意する。	<input type="checkbox"/> <b>懐中電灯</b> 停電時や夜間の移動に必要なもの。手回しで発電できるものがおすすめ。	<input type="checkbox"/> <b>携帯ラジオ</b> 小型で軽く、FMとAMの両方を聴けるものがよい。
<input type="checkbox"/> <b>救急医薬品・常備薬</b> キズ薬、ばんそうこう、解熱剤、かぜ薬、胃腸薬など。常備薬があれば忘れずに。	<input type="checkbox"/> <b>非常食・飲料水</b> 乾パンやアルファ化米など、火を通さずに食べられるもの。水は、ペットボトル入りを。	<input type="checkbox"/> <b>貴重品</b> 預貯金通帳、健康保険証、免許証など。現金は公衆電話用に10円玉も忘れずに。
<input type="checkbox"/> <b>生活用品</b> 衣類、軍手、ナイフ、ライター、缶切り、簡易トイレなど。	<input type="checkbox"/> <b>予備電池</b> 意外に忘れがちなもの。長時間電池を使用する場合を想定して、多めに用意しておくこと。	※アルファ化米とは精白米を炊飯し急速的な乾燥処理を行った乾燥加工食品のこと。水かお湯を注ぐだけで食べることができます。

**備蓄品**  
 備蓄品は「特別に保存できる食品」だけでなく、常温保存できる食材(缶詰、そうめんやパスタなどの乾めん、ジャガイモなどの日持ちする野菜)をできるだけ常備しておく、わざわざ大きなスペースを取らずに備蓄品を確保することができます。

高鍋町の「防災行政無線」からの放送を屋内で聴くことができる

## 「戸別受信機」を無償でお貸しします！

この受信機からは、地震情報、避難情報、国民保護情報、町からの行政情報等が放送されます。(※ラジオの機能はありません。)



**貸与の条件** 次のいずれかの区域に該当し、かつ、防災行政無線スピーカーからの放送を聴くことが困難と認められる地域にお住まいの方(世帯)  
 ア 土砂災害警戒区域  
 イ 津波の浸水が想定されている区域  
 ウ 河川の氾濫等により浸水が想定される区域  
 ※ただし、携帯電話を活用した防災情報配信システム(SOSネットワーク)を利用できない状況にある世帯の方を優先させていただきます。

**申込方法** 所定の申請用紙に必要事項をご記入の上、総務課生活安全係までご提出ください。代理の方による提出でも構いません。(申請書は、町のホームページからダウンロードできます。)

- 設置までの流れ**
- ① 申請
  - ② 総務課職員による確認調査
  - ③ 決定通知
  - ④ 貸与

※電波受信状況によっては、アンテナ工事が必要な場合があります。(無料)



問い合わせ先 TEL: 0983-26-2022  
 総務課生活安全係 FAX: 0983-23-6303

町では、平成27年10月からインターネットによる高鍋町ふるさと納税の受け付けを開始し、平成27年度は全国の方から下表のとおり寄附をいただき、基金に積み立てました。たくさんの方の応援、ありがとうございました。(平成28年度に実施する各事業に、基金の一部を充当します。)

テーマ	寄付件数	寄付金額	用途
歴史と文化が香るふるさとづくり	78件	1,420,000円	姉妹都市交流事業
子どもたちの笑顔あふれるふるさとづくり	422件	7,203,000円	子ども医療費助成事業 子育て情報発信事業 学校備品購入事業
自然環境を守るふるさとづくり	201件	3,020,000円	
心安らかに暮らせるふるさとづくり	59件	910,000円	緊急通報システム事業 消防団活動服更新事業
産業が輝くふるさとづくり	84件	1,480,000円	灯籠まつり補助事業 農村イベント補助事業
町政一般への寄附	444件	8,110,000円	ふるさと納税推進事業等
合計	1,288件	22,143,700円	

平成28年10月から新たに「楽天市場」での受け付けを開始しました。民間ノウハウを活用した返礼品の開発、PRを行っていますので、町外在住の方にぜひご紹介ください。

「楽天ふるさと納税」高鍋町ページURL <http://www.rakuten.co.jp/f454010-takanabe/>

町では、寄附者に贈呈する地場産品を提供していただける事業者を募集しています。詳しくは政策推進課財政経営係(TEL:26-2018)までお問い合わせください。

全国の方々から  
 応援していただきました  
 ↳高鍋町ふるさと納税

# 19人が受賞

## 「町民の日」記念式典・高鍋町社会福祉大会

10月1日(土)、高鍋町美術館多目的ホールで、第50回「町民の日」記念式典・第49回高鍋町社会福祉大会が挙行され、町に功績のあった19人の方の表彰を行いました。表彰式後に、参加者全員での町民憲章朗読、町民歌斉唱を行い、町のさらなる発展を願いました。表彰者は次のとおりです。

### ◇一般受賞者



- 磯野 浩藏さん
- 上野 正彦さん
- 荒川 勇さん
- 北原 寿生さん
- 日高 照夫さん
- 宇野 富子さん

### ◎民生部門

- 大塚 照夫さん
- 岡本 和子さん

### ◎教育文化部門

- 江藤 仁昭さん

### ◇福祉関係受賞者

- 中尾キヌ子さん
- 小柳 窈子さん
- 矢野 充宏さん
- 児玉 清子さん
- 藤沖 秀人さん
- 丹沢 初子さん
- 清松世都子さん
- 川野 博己さん
- 板垣 衛さん
- 芳村 治子さん



受賞者の皆さん



町民歌を斉唱する参加者の方々

## 大好きな高鍋町の風景

10月24日(月)、「第5回高鍋町景観絵画コンクール・景観写真コンテスト」の表彰式が役場で行われました。受賞者は次のとおりです。

### ◎絵画部門

- 【金賞】幸丸 詠乃さん (高鍋東小学校1年)
- 【銀賞】原田 夏希さん (高鍋西中学校1年)
- 【銅賞】岡田 莉奈さん (高鍋東小学校6年)
- 大塚 菜生さん (高鍋西中学校2年)

### ◎写真部門

- 【金賞】小山 姫風さん (高鍋西中学校3年)
- 【銀賞】永友 海翔くん (高鍋東小学校2年)
- 【銅賞】原田 実季さん (高鍋西中学校3年)
- 原口 真希さん (高鍋西中学校3年)
- 【特別賞】伊東 嵩公くん (高鍋西中学校3年)
- (高鍋西中学校4年)



応募作品は、各々の町への想いが込められた力作が集まった



### ◎100歳おめでとう

町内在住の的場末子さんが元気に100歳を迎えました。野菜やお花の栽培が趣味という的場さん。これからも元気で過ごしてください！



「お肉とビールが大好き！」と話す的場さん

### ◎秋を堪能 稲刈り体験

10月2日(日)、四季彩のむらで稲刈り体験が行われ、大人8人、子ども23人の計31人の方が参加しました。黄金に色づいた稲穂を、秋の日差しに強いなか、子どもたちが懸命に刈り取る姿が見られました。



自然を堪能しながら、稲刈りを楽しむ参加者の皆さん

### ◎とくとく商品券 販売記念式典

10月3日(月)、高鍋商工会議所内において、子育て応援とくとく商品券販売記念式典が開催され、表紙の絵画に応募した227人の中から採用された11人の子どもが参加しました。この商品券は即日完売しました。



笑顔で給食を頬張る児童たち

### ◎お米を寄贈いただきました

9月8日(木)、JA児湯水稲部会高鍋支部から、町内の小中学校へ150kgのお米の寄贈がありました。寄贈されたお米は、9月14日(水)に東西中学校、9月30日(金)に東西小学校の給食で提供されました。

### ◎伝統を受け継いで

10月3日(月)、鳴野地区に伝わる駄祈念祭で棒踊りが奉納されました。昭和52年に町無形文化財に指定されたこの踊りを、現在約30名のメンバーで継承しています。由緒ある伝統を途絶えさせぬよう活動を続けていますが、平均年齢は65歳を超えており、若い踊り手を募集しています。「我こそは！」という方は、社会教育課文化係(☎2313326)まで。



雨の降る中、素晴らしい踊りを見せてくださった保存会の方々

### ◎古墳祭

10月30日(日)、持田古墳群の山の神塚前で、古墳祭が行われました。秋晴れのなか、高鍋神楽が奉納され、先祖の霊を慰めました。



厳かな雰囲気なか、神楽が奉納された

## 新入園児募集中

園庭や教室でいっしょに遊びませんか。  
満2歳より就学前のお子様をお預かりいたします。  
幼稚園部 保育時間 7:30~15:00 延長保育有 18:30まで  
保育園部 保育時間 7:30~18:30  
認定こども園 **高鍋カトリック聖母幼稚園**  
場所 ジョイアス横 電話 0983-23-1500



同顕彰会と各学校長等が参加した贈呈式

◎十次先生の遺志を後世へ  
10月31日(月)に石井十次顕彰会から町内の小中高等学校6校に書の寄贈がありました。寄贈いただいた書は、各学校に飾りました。

## 地域で子育て応援！

10月30日(日)、高鍋町健康づくりセンターで第11回目の高鍋町子育て応援フェスティバルが開催されました。当日は約1,500人の来場者が訪れ、食育コーナーでのおにぎりとお味噌の調理体験実習や赤ちゃんハイハイ競争、人形劇などさまざまなイベントが催されました。どの会場でも親子の元気な笑顔と声が溢れ、大盛況でした。



必死にお母さんのところへハイハイして行く赤ちゃん



たくさんの参加者が手作り作品に挑戦

## 第2回 高鍋城灯籠まつり 写真コンテスト

町を代表するイベント「高鍋城灯籠まつり」の幻想的な世界を写真に残し、より多くの人に知ってもらおうと「第2回 高鍋城灯籠まつり写真コンテスト」が行われました。まつり当日、会場で撮影した作品を募集したところ、町内外からビギナー部門に5人、ベテラン部門に9人の応募がありました。

応募作品は、高鍋町総合文化祭開催期間中、高鍋町中央公民館に展示されました。また、町のホームページにも掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



ベテラン部門最優秀賞作品「ハイ！ポーズ」

ビギナー部門最優秀賞作品「エール」

# わが町の宝物

このコーナーは、9・10カ月児健診に来たお子さんを紹介しています。  
今回は、9月・10月の健診に来た元気なちびっこたちです！

みんな  
元気に育ってね。



うじばし いおり  
宇治橋 伊織ちゃん



あらかわ かく  
荒川 岳 ちゃん



おだ みほな  
織田 実穂菜ちゃん



あおやま きい  
青山 希愛 ちゃん



すずき あきと  
鈴木 煌士 ちゃん



ひらへ もな  
平部 李奈 ちゃん



おがた みゆ  
緒方 望結 ちゃん



にし りゅうま  
西 琉真 ちゃん



うちの ののかちゃん



おおき みなみちゃん



よしおか みはる  
吉岡 美晴 ちゃん



くわの とあ  
桑野 十碧 ちゃん



さかもと ゆり  
坂本 結梨 ちゃん



おおつ まことちゃん



くほしき しおり  
久保敷 菜莉ちゃん



かい さくのすけ  
甲斐 咲之丞ちゃん



うめやま こはる  
梅山 心香 ちゃん



おばた つむぎ  
小畑 紬 ちゃん



はしとど そわ  
橋本 空和 ちゃん



しまこ ひこのしん  
島子 彦乃心ちゃん



こうの ゆづき  
河野 癒月 ちゃん



かい あさひ  
甲斐 旭 ちゃん



かわの ゆうま  
河埜 優磨 ちゃん



さとう ゆあ  
佐藤 優杏 ちゃん



いのうえ そうすけ  
井上 惣介 ちゃん



ひだか わかな  
日高 和奏 ちゃん



いしがみ はるか  
石神 陽花 ちゃん



おだ ひなた  
小田 陽 ちゃん



みき りょうと  
三樹 亮和 ちゃん



はまむら りょう  
濱村 亮 ちゃん



すずき りゅうが  
鈴木 琉翔 ちゃん



わたり あさひ  
渡 朝光 ちゃん



てぐち ゆき  
出口 雪 ちゃん



くろぎ きよと  
黒木 清冬 ちゃん

## 広報たかなべ 2016. 11. 18 NO. 403

編集・発行／宮崎県高鍋町  
〒884 - 8655 宮崎県児湯郡高鍋町大字上江8437  
政策推進課／☎0983 - 26 - 2003  
<http://www.town.takanabe.miyazaki.jp>  
※「広報たかなべ」は町ホームページでもご覧になれます。



### 人口と世帯数 (11月1日現在・前月比)

人口／ 20,863人 (+ 5)  
男性／ 9,774人 (+ 4)  
女性／ 11,089人 (+ 1)  
世帯数／ 8,674世帯 (+ 5)

★MRT宮崎放送から  
高鍋町の情報を紹介しています★



MRT宮崎放送  
毎週月～金曜日  
午前9時55分～放送

「モーニング てらす」の中で、毎月1回「いいね高鍋！大使くんが行く」でレポーターを務めた甲斐蓉子さんが高鍋町の「いいね！」を紹介しています。ぜひご覧ください♪